

一般社団法人

日本人間関係学会ニュース



創刊第100号 記念号 発行: 2021.2.22

News No.100 Japan Association of Human Relations February 22 2021

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室

事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室

E-mail: jahrijimukyoku@gmail.com URL: https://jahr.jp/

[内容] ☆理事長挨拶 ☆全国大会報告 ☆100号記念・拡大バージョン 北から、南から ☆順子の映画鑑賞記④ ☆事務局だより

《理事長挨拶》

創刊第 100 号記念号について

理事長 早坂 三郎
(甲子園短期大学学長)



学会ニュース第 100 号
記念号の発刊、誠におめで
とうございます。

日本人間関係学会創設
者にして初代会長である
茨木俊夫先生のもと本学
会は 1993 (平成 5) 年 11
月の全国大会を以て発足

しましたが、本紙は学会活動がスタートした設立総会の翌年 1 月 1 日に「学会ニュース創刊特別号」と銘打って発行され、以来本紙作成に携われて来られた委員長並びに委員の方々のご貢献のお陰で 100 号記念号となった次第です。とりわけ現委員長である谷川和昭先生のご努力に深甚なる敬意を表したいと存じます。先生は、ご入会の 2008 (平成 20) 年に当時会長であった上原先生から直々に「北から、南から」への原稿依頼を受けたことを今もなお鮮明に憶えておられるとのこと、また 10 年前にニュース担当となり、前任者からの引継ぎ後の当時は使い慣れていた「一太郎」のワープロソフトから普段ほとんど使うことがなかった「WORD」での作成となったため写真やイラストのレイアウトにご苦労があったとのこと、何度も貼り付け直しは溜息を吐いておられる様子が目に浮かぶようです。

この学会ニュースは学会活動の文字通り告知板であり広報の役目は当然のこと、全国に広がる会員の皆さんの交流と、まさに人間関係を構築し展開し

て頂くためのツールとなることを目論んでの発刊及びその継続と思考しているところです。当時から異なる研究分野並びに実践領域の研究者、また各方面で活躍されている社会人、そして家庭にあって家族や近隣社会での対人関係に思いを深めておられる方々など広範な諸領域でのよりよき人間関係の構築と展開についての実践と研鑽を積もうとする会員の皆さんによる日本人間関係学会の使命と役割についての理解と協力の輪を広めようとの刊行の趣旨が強く感じられます。そして、これはこれからの AI 化社会の到来する今後においても、一層継続することが必要であると考えます。

まさしく本学会は人間関係に関心をもたれている全ての人に門戸を開いており、共に歩もうとする学会設立の基本方針は不易であり、豊かで多様性を認め合える人間関係の社会的醸成に会員の皆さんと共に努めてまいりたいとの思いを新たに、第 100 号記念号発刊にあたっての心構え、そしてご挨拶とさせて戴きたいと思ひます。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大により人間関係とコミュニケーションは大きく阻害されていますが、全世界の感染の一日も早い収束を願うと共に会員の皆様の息災をお祈りし、併せてこの折にこそ新しい生活様式の中での人間関係の構築と展開についての考察と実践に関わる本学会の使命と貢献について、会員各位からの様々な形での協力・提案を要望するものであります。

第28回全国大会—新しい生活様式と人間関係 大会史上初の“誌上発表”によって開催

今年度、コロナ禍にあっても全国大会の開催は大きな課題であったが、会員諸氏より多くのエントリーを頂戴し、研究発表抄録集への掲載および発刊を以て無事に第28回全国大会（大会長 谷川和昭）が開催された。

先般、事務局・大会本部（森千佐子）より全会員宛に大会冊子が送付されている。QRやHPからも全頁閲覧できるよう便宜が図られている。



研究発表抄録集 目次紹介

大会長挨拶

新しい生活様式と人間関係

谷川 和昭（関西福祉大学教授）

理事長挨拶

社会構造の変革による新しい生活様式と人間関係

早坂 三郎（甲子園短期大学学長）

リレーエッセイ

新しい生活様式と人間関係—SOHZO できるカー—

露木 信介（東京学芸大学准教授）

グレーから白黒の世界へ～大切な人～。

中村 千穂（会社員・聴覚障害者）

コロナ禍の時代でも大切なこと—心のコミュニケーション—

富田 幸典（赤穂市民病院 医療課 医療計画係長）

ZOOMでラジオ体操のススメ

久保 李佳（抱っこ育児コミュニケーション）

コロナ禍だからこそその気づき～人として 家族として 社会の一員として～

岡田 英之（うつ病にさせないためのコンソーシアム幹事、
関西ふくしグラレコグループ～むす部～、
しょむすび代表）

研究発表

保育者と保育者志望学生の4歳児に対する言葉かけの内容の適切さに関する保育経験年数15年以上の保育者の評価

戸田 大樹（創価大学） 大村 良恵（聖徳大学大学院 院生）

＜生活指導＞＜生徒指導＞の教職課程テキストにおける内容の比較分析

藤田 毅（太平洋学園高等学校）

市区町村子ども家庭相談における多機関・多職種連携の課題ー要保護児童対策地域協議会担当部署職員への聞き取りからー

丸谷 充子（和洋女子大学）

消滅危惧集落と地方都市近郊の高齢過疎地域で暮らす一人暮らし男性高齢者のソーシャルサポートの特徴

藤川 君江（国際医療福祉大学） 上里 彰人（国際医療福祉大学）

消滅が危惧される中山間地の一人暮らし男性高齢者が居住継続できる要因

藤川 君江※（国際医療福祉大学） 森 千佐子※（日本社会事業大学）
田代 千香（国際医療福祉大学） ※共同筆頭

マナーの役割の変容についての一考察ー社会の生活様式が変わればマナーも変わるー

伊東 香苗（株式会社チーム学際代表取締役社長）

保育所の保護者支援へのアクセス時の困難と保育所の相談支援体制に関する研究

竹下 徹（徳山大学） 牛島 豊広（筑紫女学園大学）

芸術家に求められる役割、機能の変化-人間関係の側面からー未来の芸術領域における人間関係の重要性についてー

丹羽 貴大（学校法人瓜生山学園 京都芸術大学）

幼児教育における人間関係と集団生活

原子 純（久留米大学）

学校適応に困難さを抱える児童の保護者への教育相談の取り組みに関する研究

牛島 豊広（筑紫女学園大学） 竹下 徹（徳山大学）

実践発表

人間関係を重視した地場スーパーマーケット経営ー野中郁次郎の理論からー

清川照美（株式会社タイヨー 取締役副社長）

論文講座

論文講座の趣旨と基本

占部 慎一（研究委員会委員長）

質的研究論文の執筆方法

加藤 誠之（高知大学教育学部）

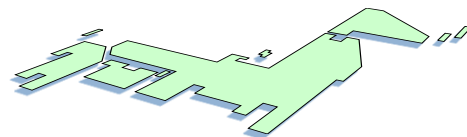


日本人間関係学会第28回全国大会を終えて

本大会では、誌上発表によって成立したこと以外にも、いくつか特徴が認められる。まずは今大会から初めて査読システムを導入したことである。1演題につき査読者2名ずつで審査にあたった。また、手探りであったが、ICTも活用した。Googleフォームを用いて発表申込や抄録原稿を提出していただいた。さらに、大会本部と抄録集プロジェクトの見事な連携プレーが光ったことを挙げておきたい。協働という言葉があるが、見事に補完・協力し合えたことに感謝したい。（谷川和昭）

北から、南から

100号記念・拡大バージョンでお届けします



森の中で超フレッシュな人間関係

=楽しい森の保育園、森の中でゼロ歳児から小学校低学年の子ども達と活動する

上原貴夫(佐久大学 客員教授)

皆さん「森の幼稚園」はご存知だと思います。ドイツや北欧などを中心に始まり、今、日本国内でも広がりつつあります。

発想は似ていますが新たな保育制度として整備されてきているものに「自然保育」があります。森に限らず海や川、草原など自然の中で一人ひとりの子どもに合った子育て、保育・教育を進めていきましょう。自然保育はこんな発想で整備されてきています。

長野県では全国に先駆けて県として制度整備をしてきました。私は準備段階から制度設計を企画し、検討委員会委員長を務め2015年に制度を実現しました。そのような縁もあり、今、学生さん達と森の中でこのような活動を行っています。



自然の中は刺激がいっぱいです。子ども達は刺激を受け止めながら自分に合った成長をしていきます。考え、工夫する力、主体性、自主性、感性もふんだんに発揮されます。今、学校での勉強もリモートや遠隔授業などなかなか直接体験ができない中で行われています。このような状況において実際の体験をベースとして実現されていく子育てや保育・教育は創造力・柔軟な思考力、豊かな感情を育てる意味で改めて注目されています。

また、子ども達は友達作りの名人。大人も含めた人と人のつながりをどんどん作っていきます。森の中でとても楽しい人間関係が生まれてきます。

現在、このような保育を土曜日や日曜日を活用して「週末型」「自然保育」として行っています。

名前は「ながの県森と自然の保育園」といいます。場所は長野県佐久市(軽井沢の近く。東京から新幹線、高速道で至便)。2015年から学生さんや地域の方々と一緒に長野県の施設である「長野県望月少年自然の家」一帯の森を使って始めました。標高はおよそ1250メートル。さわやかな高原です。一帯はスギやケヤキ、山桜、カラマツなど、針葉樹や広葉樹が混ざった混交林です。キジやキツツキ、シジュウカラなど小鳥もいっぱいの豊かな森です。



参加する子どもさんはゼロ歳児からです。まだハイハイもできない段階から森の中で過ごしています。お父さんやお母さんも一緒に参加しています。子ども達は森の中を飛び回っています。きれいな花を見つけたり、リスの巣をのぞいたり、シカの足跡を不思議そうに見たり、ドングリを拾って数え方を覚えたりしています。木登りも大好きです。得意げに登っていきます。



森の中で飛んだり、跳ねたり、喜んだりする子ども達の姿は親にとってもびっくりの連続です。驚いたり、喜んだりしています。若い学生さんにとっては将来の子育てをじかに学ぶ場になっています。

興味を持たれた方はぜひフェイスブックをのぞいてください。子ども達の姿を見ることができません。可能でしたら感想などお聞かせください。実際に参加してみたい方がおられましたら大歓迎です。

まだまだお伝えしたいことたくさんありますが、今回はこのくらいとします。機会がありましたらまたお伝えします。写真は保育園のひとコマとフィールドの景色、お父さん達が頑張ったつくった雪だるまです。

私のスタイルを通じ考えてみたこと

竹村泰央(高知県立希望が丘学園)

この1年を通し、新型コロナ対策として不要不急な行為の自粛が求められています。

こうした不要不急な行為の自粛が、我々や社会にどのような影響を与えてしまうのか？

それ以前に、そもそも不要不急とされる行為自体に、どのような意義があるのか？

これらについて、教育という場において不要不急のように見なされがちな私のスタイルを通じ考えてみました。

私は、そもそも子どもの学習は遊びであると考えています。嫌々させられる勉強ではなく、わくわくする様な面白さを感じさせられる教育によって、どのような子どもにも学習という遊びが成立するものと考えています。

したがって、時々他の先生からの冷ややかなご指摘を頂くことがあります。

しかし、仮に学習から遊びの要素を取り去ってしまったら、教育という名を借りた調教や修行のような勉強というものになるのではないのでしょうか？

とある学習塾の「やればできる子・YDK」というキャッチフレーズがありましたが、結局嫌々ながらも努力しないといけないのは子ども達です。進学や成績向上といった目的に向かって嫌いな勉強を仕方なくやらされるのではなく、ただ面白いから学習に向かっていける教育が求められていると感じています。

一般的には、遊びは不要不急であり、不謹慎な行為とも見なされます。しかし東北大震災後の子ども達のPTSDに、津波ゴッコの遊びがおぞましい記憶の浄化に有効的だったとの報告も聞きます。

このような状況だからこそ、一見して不要不急に見えがちな無駄、余裕、ゆとりの中からこそ生まれる活力や暖かな情のようなものを見失わない様にしていきたいと思います。



至福の時

大森亮哉(社会福祉法人 和順会)



最近のコロナ禍の影響で、外食する機会が減り、自炊に凝っているこの頃です。
今日は冷凍庫にあったしめ鯖をサンドイッチ🍔にしました。ノンアルコールビールを
傾けながらパンとサバもイけるな〜とニヤニヤしています。
これまでのレパートリーをいくつか紹介してみます。左から、まぐろ納豆、オムライス、
鰯の照り焼き、ブロッコリーと海鮮炒め、クリームパスタ、しめ鯖のサンドイッチ、です。



新しい人間関係の在り方

福森高洋(江戸川大学総合福祉専門学校)

会員の福森です。私はこの学会が発足する時からの古参会員ですが、ほとんど何も貢献できていない、末席の会員でもあります。お恥ずかしい。

長らく精神科医療領域で、主に心理臨床を中心とした仕事をしてきましたが、5年ほど前から福祉の専門学校で「精神保健福祉士」という精神障害者を支援する相談員を養成する仕事をしています。その養成課程の中では精神科の医療機関や福祉施設といった場所での実習が必須ですが、その担当教員をしています。

ところが、この新型コロナ騒動で実習が難しくなってしまいました。特に病院での実習はいくつもお断りされてしまいました。当然とも思います。ご家族の面会すら、制限されているのですから。

仕方なく、国からの指導もあり学内での演習をもって、実習へと振り替える措置を取りました。異例のことです。心理畑での仕事が主で、福祉的支援は従であった私の指導は、どうしても心理面に重点を置きがちです。学生には申し訳ない気持ちも抱いていたのですが、あにはからんや、学生にはウケが良かったことに支えられました。若い学生は心理の話に関心を持ってくれる人が多いんですね。あるいは、自分自身のホンネから離れて、他者や集団に合わせることを優先する在り方に染まってしまっていることと無縁ではないのかもしれませんが。

ソーシャル・ディスタンスとやらで他者との距離を取るようになっています。「コロナ鬱」なる言葉まで作られ、若い女性を中心に自殺者も増えていると言われていいます。思うに、コロナで自粛しているから鬱になるのではありませんし、まして自殺に至るのでもないでしょう。失職などの面は大きいと思いますが、それと並行して言えるのは、対人関係が希薄になることで「支え」が弱くなることの影響が大きいのだと思います。当学会の掲げる「人間関係」の話です。with コロナの時代に向けて、当学会からも

新しい人間関係の在り方を発信されることが求められているのかもしれないですね。

私個人とは言えば、他者との距離が増えたことは寂しい現実ですが、その分、自分自身の心と向き合う機会は増えたのかもしれないと前向きに捉えています。学生たちには自分自身と距離を取る人間関係ではなく、自分自身と向き合うことを支えるような人間関係を持ってもらいたいと願いながら、今日もこれから実習指導に向かいたいと思っています。



学内で箱庭療法を演習しているところ。マスクのおじさんが筆者です。

地域を知る新たな一歩

谷川和昭(関西福祉大学 本紙編集長)

2020年、新型コロナウイルスの感染拡大が世界中で起こり、いつ終わりが来るのかが見えない中で、私が担当する谷川ゼミの活動も開始となりました。ここに紹介するのは、2年生のゼミの取り組みが主です。題字も、ゼミ生でアイデアを出し合い検討したものを、ここでは使わせてもらっています。

2年生の谷川ゼミの理念は「コミュニティにより実践」です。しかし、大学の外に出て活動することは感染拡大防止、感染予防の観点からは慎重にならざるを得ませんでした。まさに手首足首を手錠でつながれたような感じで、動きづらかったというのが本音です。

しかし、そうした中でもなんとか取り組むことのできた、「コミュニティにより実践」があります。ここでは、2年生の谷川ゼミにおける今年度のいくつかの実践的学びのなかから、赤穂の観光スポット分析に限定して紹介します。

A 問い

私たちの大学がある赤穂には観光名所、いわゆる観光スポットと言われる場所があるが、実際のところどうなのだろう。それが、ここで我々が絞り込んだ問いです。

B 動機

ゼミでは、例年、路上生活者支援として炊き出しや夜回り、認知症理解・啓発としてRUN伴あこうといったイベント活動に参画してきましたが、今年はコロナ禍で思うように活動ができませんでした。しかし、こうしたなかでも、2年生は自分たちができることがないか考え続けました。

そして、きっかけは9月から始まる1年生を対象とした全学共通科目である赤穂学という授業でした。この赤穂学も、コロナ禍で授業計画の大幅変更を余儀なくされていました。毎回ゲストを招いて対話をおこなうというスタイルではなく、オンデマンド等がメインとなりました。「赤穂市の観光」は元々、授業予定にはなかったのですが、計画変更の過程で登場したのです。この情報をゼミでキャッチしました。

熟考の末、私たちは赤穂学を履修している1年生のために人肌脱ぎ、「赤穂市の観光」をテーマとする授業で何かお役に立ちたい、という結論に至りました。

C 調査方法

数ある観光情報サイトからTripadvisorに絞り、人気のある赤穂市の観光スポット上位10件を用いて、赤穂市観光スポットについて科学的な分析を試みました。具体的には、「高感度差異抽出法」という分析手法を用いたのです。高感度差異抽出法とは、臨床心理学の分野で開発された手法のことで、商品群からランダムに3品を選び、その3品を2つの印象の異なるグループに分け、分けた根拠から、商品の意味的概念を抽出する方法です。



この方法を応用し、ゼミでは、商品を「観光スポット」と見立て、独自の切り口によって意味的概念を編み出しました。10月、谷川ゼミの4回生の先輩二人にも授業にサポーターで入っていただき、助言もいただきながら、当初4グループでまとめた結果を全体1枚の表に収束させて整理しました。

また、机上の学びだけに終始するのではなく、実際にいくつかの赤穂のスポットに皆で足を運びました。観光情報センターでは、職員の方二人に高感度差異抽出法の分析結果についての感想もいただき、その後、息継ぎ井戸、花岳寺、赤穂城跡などを巡りました。

D 事実

このような調査をすることで、いろんなことが分かりました。たとえば、赤穂市の観光スポット、上位10件の中に「花岳寺」というお寺が入っており、赤穂観光大使の一人、パク・ジュニョンさんも自身のブログで紹介されていたことです。

高感度差異抽出法による分析では、私たちなりに、上位10件の意味的内容を無事に抽出することができました。

そして、結果としては、坂越の町並みと赤穂海浜公園の二者が10ポイントの高得点でした。次に赤穂大石神社と赤穂城跡、そして赤穂市立歴史博物館の三者が9ポイントを獲得しました。

高感度差異抽出法による赤穂市の観光スポットに関する分析

評価の切り口 (好き)	評価の切り口 (いまいち)	① 坂越のまち並み	② 赤穂大石神社	③ 赤穂海浜公園	④ 赤穂城跡	⑤ 花岳寺	⑥ 観光情報センター	⑦ 赤穂市立海洋科学館 塩の国	⑧ 大遊神社	⑨ 赤穂市立歴史博物館	⑩ 息継ぎ井戸	⑪ 関西福祉大学
デートで行く	行かない	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×
買い物できる	できない	○	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○
インスタ映え	映えない	×	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○
友達と行く	行かない	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	○
無料か	有料か	○	○	×	○	○	×	×	○	×	○	×
高齢者向き	若者向き	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
ご飯が食べられる	食べられない	○	×	○	×	×	×	○	×	○	×	○
駅から徒歩で行けるか	行けない	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	×
季節を感じられる	感じられない	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○
大人数	少人数	○	×	○	○	×	×	○	×	○	×	○
家族と行く	行かない	○	○	○	○	×	×	○	×	○	×	○
広い	狭い	○	×	○	○	×	×	○	×	○	×	○
○の数		10	9	10	9	6	3	7	5	9	4	8

出典：関西福祉大学社会福祉学部 2回生 演習・コミュニティアワーⅡの谷川ゼミによる調べ（2020.10.13現在）

なお、筆者の勤務する「関西福祉大学」も11番目に入れて分析しており、8ポイントの得点を得ておりますところは、ご愛敬ということでご容赦ください。

また、以上の経緯や結果について、無事に1年生受講の赤穂学の授業で公表する機会を得ました。

E 考察

パク・ジュニョンさんという演歌歌手が赤穂の観光大使を務めているので、ジュニョンさんの人気が上がればさらに赤穂の観光スポットの価値が上がるものと言えます。なかなか味のある若手演歌歌手であり、個人的には好感を持っており、なじみやすいのではないかと考えられます。

それから、高感度差異抽出法による結果では、得点の高低が明らかになりました。しかし、得点が低いからといって当該スポットに価値がないとは決して言い切れないと考えています。

そして、何より今回分析をおこなった側は学生、つまり若者のみであるという点にも注意が必要です。世代が異なるとどのように異なってくるのか、あるいは地元の方と地元でない方との違いはあるのかなど、おそらく分析者が変わると結果も変化する可能性があることも踏まえておきたいところです。今回の結果についてはあくまで参考程度にとどめるのが無難と考えられます。いずれにせよ、赤穂の観光スポットに一度は足を運んでみたいと思える、価値ある取り組みができたこと、そして、赤穂という街を知らない(知る機会があまりない)1年生の学びに貢献できたことを万謝したいと思います。

雑 感

早坂三郎(甲子園短期大学 本学会理事長)

私は、関西の地に住むようになってから早や半世紀となりますが、いまだに初対面の方からは「どちらのご出身ですか」と問われている東北は仙台生まれの訛りの抜けない関西人です。もし、小さい時にアメリカで暮らしていれば、さぞかし英語に不自由しなっただろうと恨めしく思っている怠け者ですが、その故郷でこの2月13日深夜にM7.3の大地震が発生しました。震源が55Kmと深く海底変形がわずかだったため、あの10年前の東日本大震災のような津波は来ないと速報されましたが、家屋の倒壊・土砂災害・道路の損壊、そして停電・ガス・断水と家の片づけや補修の様子を見て、阪神・淡路大震災の時と重ね合わせとても悲しい気持ちになりました。しかも、新型コロナウイルス感染対策から体育館などの避難所にはテントが張られ、いたわり合いや気遣い合いなどのコミュニケーション機会のない映像を見る時、このコミュニケーション障害がストレスやレジリエンスに影響しなければよいが、とただ願うのみでした。

しかし、なぜか15日には、日経平均株価がバブル期最高値の1989年以降30年振りに3万円台を付けました。経済実態を反映していないものの新型コロナウイルス感染対策のため景気を下支える各国の大規模な金融緩和マネー流入が株価を押し上げているからとのことですが、やがてはバブルがはじけ、またインフレなどにより生活が厳しくなり、バブル崩壊時に似たショック現象が起こらないかと、不安は高まるばかりです。

ところでもう一つの不安は仙台の同年代の知人によれば、自分には聞こえなかったが若い人たちには今回の長い揺れの前に「ゴオーッ！」と厭な音が聴こえたそうです。

地震を前もって告げているかのような周りからの重要なサインを察知できないようにはなりたくないものと、世相に絡めて強く思った次第です。皆さん、注意しましょう！

次号、第101号の、**原稿募集**します！ 2021年**7月末締切**です。

お願いしたいのは、お一人あたり**400～1,000文字**程度です。

日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、**どんなことでも結構**です。

お便りに載せてください。

また、**俳句や短歌、詩**などの発表も大丈夫、受け付けています。

地域で語り伝えられる**民話**や、その土地その土地の**珍しいお話**などもお寄せください。

旅行の思い出や、紀行。人生で**とっておきの話**。皆さんに**お話をしたいこと**。

皆さんのお気持ちのお話をお聴かせ下さい。

8月に発行予定です！

送付先 広報委員会（谷川）まで tanikawa@kusw.ac.jp

2020年、コロナ禍の影響で旅行などに出かけることは減りましたが、安全、安心とされる映画館には頻繁に足を運びました。150本ほどの劇場公開映画を鑑賞。

幾つかの作品に、差別をテーマとした映画があり印象的でした。私自身は差別というと、身分差別・障害者差別・学歴差別・職業差別をイメージとします。偏見や差別がどうして起こるのかということでは、学会のテーマでも取り上げて欲しい根源的な問題だと思います。人種差別や民族差別は太古の時代から存在しているし、今もって日常的に直面する問題だと思えるからです。

『黒い司法 0%からの軌跡』(2019年アメリカ制作)

人種差別が激しい南部に行き、冤罪の死刑囚のために力を尽くす、実在の弁護士のブライアン・ステューブソン。弁護士役のマイケル・B・ジョーダンの熱演もあり、ストーリーも伏線があり面白かったです。法定シーンは見応えがあり感動的でした。このマイケル・B・ジョーダンは、2009年に一般市民の黒人青年が警官に銃殺された事件を映画化した『フルートベール駅で』(2013年アメリカ制作)でも被害にあった青年役を演じています。

黒人の差別を描いた映画はたくさんありますが、私が最近鑑賞した作品では『ムーンライト』『ドリーム』『グリーンブック』あたりが秀逸だと思います。

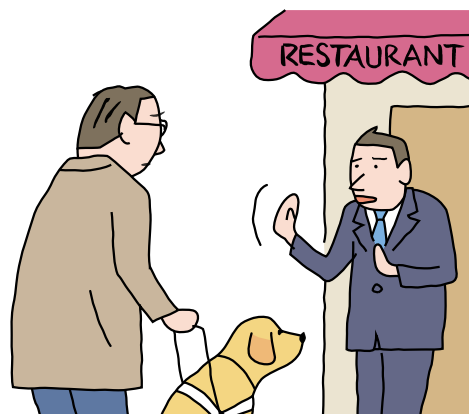
今でも、同じような理不尽な事件が繰り返され、「Black Lives Matter」運動にあるように、黒人への差別意識、命の不平等さに愕然としてしまいます。

『ルース・エドガー』(2019年アメリカ制作)

この作品は少し変わった視点で描かれています。文武両道な黒人の高校生、ルース・エドガーは「息ができない」という言葉を吐くのです。白人の養父母や周りの期待で押しつぶされそうな普通の高校生と思えますし、知能犯的なサイコパスと思えるシーンも描かれます。常に黒人として向けられる目。ルースが何を考えているのかわからない怖さに、偏見と良識が交錯して、私自身がどのように捉えていいのかわからずにもいました。ある意味、こういう変化球的に差別を描くこともできるのだと思いました。

2020年私のとっておきベスト10を紹介いたします。(ドキュメンタリーは含まず)

- ① 異端の鳥(ウクライナ・チェコスロバキア)
- ② ボヤンシー 眼差しの向こうに(オーストラリア)
- ③ スイング・キッズ(韓国)
- ④ 黒い司法(アメリカ)
- ⑤ ルース・エドガー(アメリカ)
- ⑥ ラスト・ディール(フィンランド)
- ⑦ 無垢なる証人(韓国)
- ⑧ 薬の神じゃない(中国)
- ⑨ マルモイ ことばあつめ(韓国)
- ⑩ 名もなき生涯(アメリカ・ドイツ)



事務局だより

【会員動向】（2020年8月21日～2021年2月20日）

2021年2月20日現在

会員163名（正会員：134名 一般会員：11名 準会員：18名 賛助会員：0）

〈入会者〉 正会員 8名 ※敬称略

・清川 照美 ・酒井 貴広 ・薄井 浩信 ・丹羽 貴大
・近藤 重晴 ・目黒 達哉 ・大住 誠 ・篠崎 啓嗣

一般会員 1名 ※敬称略

・田中 和美

準会員 1名 ※敬称略

・新井 千香

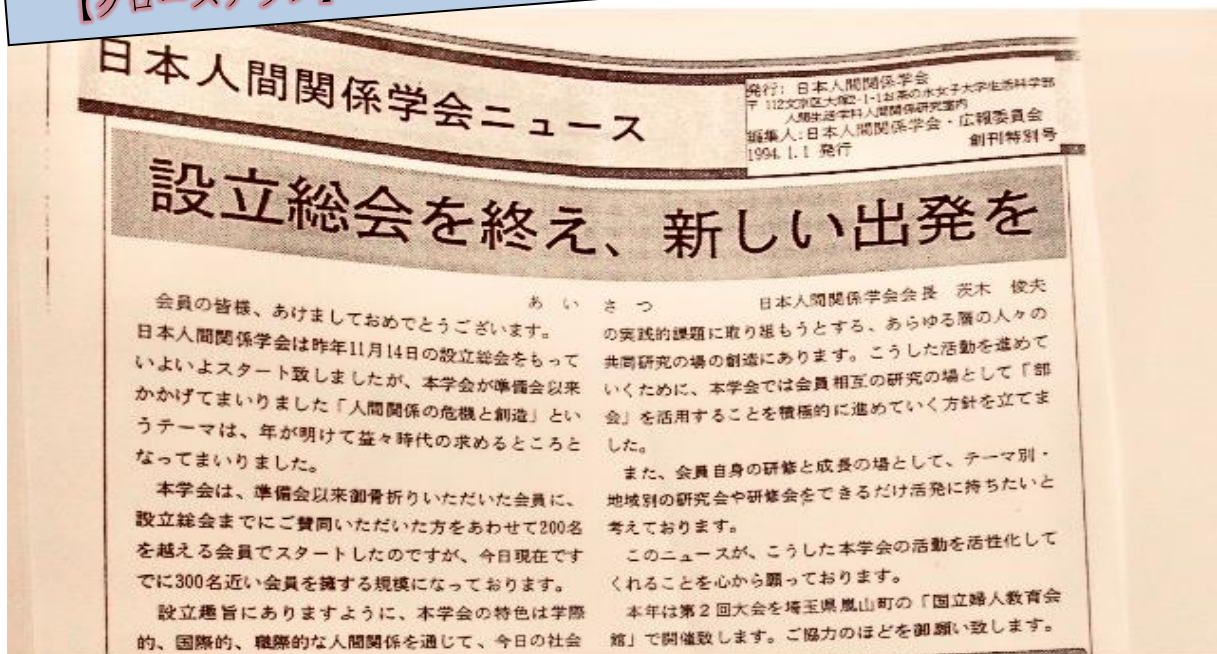
〈退会者〉 7名（正会員：5名 一般会員：1名 準会員：1名）

【メールアドレス登録のお願い】

2月初旬に、「人間関係学研究」「第28回全国大会研究発表抄録集」等をお送りしました。その際に、メールアドレスご登録のお願いを致しました。今後、「学会ニュース」もメール配信のみとさせていただきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、2020年度会費のお支払いにつきましても、よろしくお願い致します。

【クローズアップ】 日本人間関係学会ニュース 創刊特別号 1994.1.1.発行



（編集後記）

今号は、日本人間関係学会ニュースが創刊して第100号の記念号です。ニュース編集では何度もくじけそうになった時に、陰で応援してくださった方、そしてピンチの時に原稿執筆で助けてくださった方々がおられます。そうした方々のご温情があればこそ、ここまで来られました。発行日である「2月22日」は、「友情の日」「国際友愛の日」でもあります。「北から、南から」は、引き続き投稿をお待ちしております。（谷川和昭）